

もの言う牧師のエッセー 第234話

「文春砲」

週刊文春の勢いが止まらない。年明け早々に好感度ナンバー1 タレントだったベッキーと人気バンド「ゲスの極み乙女。」のボーカル・川谷絵音との不倫疑惑に始まり、甘利明元大臣の金銭授受疑惑、「育休議員」として知られた宮崎謙介元衆議院議員の不倫、そして巨人選手の野球賭博など、特大スクープは全て文春によるものだ。さらに、SMAP 分裂騒動においては、昨年1月に同誌が報じたジャニーズ事務所・メリー喜多川副社長の独占インタビューが重要なカギとなり、2月に覚せい剤の所持・使用で逮捕された元プロ野球選手・清原和博については、2014年の時点で薬物疑惑を報じていた。今や「文春砲」として有名人に恐れられるその取材力は、社会情勢を左右する存在になりつつあると言っても過言ではなく、新聞やテレビなど他の報道機関では、文春の記事を後追いつする“コピペ報道”が常態化しつつある。

実のところ、これは日本特有の事情で、権力の監視が重要な役割となっている海外の報道機関には奇異に映っており、米国のメディア研究機関「Open Source Center」は、「政治や企業などほとんどのスキャンダルは新聞ではなく、週刊誌や月刊誌から公表されている」と驚きを交えてレポートしているほど。一体なぜ文春ばかりが大スクープを連発できるのか？

文春の編集長、新谷学氏によれば、入念に現場の状況を把握する取材チーム、記者のやる気が出る仕組み、給料を貰わずネタで報酬を稼ぐフリーランサーたちなど色々あるが、極めつけは“タブーを恐れないこと”だ。「訴訟や炎上を恐れてキレイごとしか言えない雰囲気はマズイ。建前があふれる今だからこそ、本音の情報を伝えるメディアが必要なのでは。」なるほど！

人々にキリストの到来を宣言し、

**「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りを
のがれるように教えたのか。それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」**

マタイの福音書3章2,7-8節、

と言い放ったバプテスマのヨハネを思い出した。怒鳴られているのは誰あろう神に選ばれたイスラエルの人々で、神を信じる人たち。しかし、彼らの不信仰のゆえに長らく続く困難の中、ヨハネを慕って会いに来た群衆たちである。だが、そんな彼らにお構いなくヨハネは叱りつけたのだった。今、会員や献金が減るのを恐れ、罪やその結果である滅びを人々に伝えるのを躊躇する教会が少なくない。人に嫌われるのを恐れ、はっきりキリストの救いを示さないクリスチャンもいる。また、

“神を信じるだけで救われる”などと頓珍漢な解釈をしている信者も多い。神を信じるとは、己の罪を恥じ、「悔い改める」ことである。これからも大胆に罪を示し、イエスの救いを宣伝する決意を新たにした。

2016-5-13

